

東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学は、2001年3月に四大学連合憲章を結び、真に国際競争に耐える研究教育体制を確立すべく、たゆまぬ努力を続けてまいりました。その努力の一環として、世界最先端の研究を強力に推進してきております。そして、この10年間に世界第1級の研究成果を数多く上げてまいりました。第6回目の今回も、学術研究の最前線をわかりやすく解説します。

《講演要旨》

「地震から人・建物・財産を守る新構造技術」

東京工業大学応用セラミックス研究所 教授 笠井 和彦

第二の関東大震災が起これば、膨大な数の人命が失われ、都市機能が停止し、経済被害は約100兆円におよぶという予測もある。これを回避するための、建物の揺れと損傷を防ぐ新しい構造技術について説明する。

また、世界最大の建物震動実験結果、および3月11日の東日本大震災での建物の揺れの記録に基づき、この技術の効果も述べる。

「大震災後の経済政策－リスク社会をどう生きるか」

一橋大学経済研究所 教授 小林 慶一郎

東日本大震災を受けて、自然の脅威や原子力発電所の事故など、現代社会が抱える巨大なリスクが顕在化した。これからの経済政策の方向性を考えるとともに、放射能汚染の不安などの問題をリスクと不確実性の経済学という視点から論じ、情報公開の重要性を改めて考えたい。

「日常性が壊れるとき－南タイのムスリム・仏教徒関係から－」

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授 西井 凉子

南タイでは2004年以来日常的に暴力的な事件が頻発し、いつ誰が被害者になるのかわからない不安な状況が続いている。朝いつものように出かけた子供が帰ってこない、村のモスクに礼拝にいった夫が殺されるといった、今日と同じように明日も平穏無事に暮らせるという生活の安

寧の根幹が破壊されつつある。そうした人びとの日常性が破壊された状況は、現在の大震災による日本の状況に通じるように思われる。南タイの紛争地域の人々が、どのように生をたちあげているのかを見ることで、いかに新たな希望へとつなげることができるのかを考えてみたい。

「半導体と医療の接点を探る－ナノバイオ技術による新たな臨床検査を目指して－」

東京医科歯科大学学生体材料工学研究所 教授 宮原 裕二

ナノメートルサイズ、分子レベルを扱うことができる新たな技術の動きが急速に展開しつつあり、既存の学問分野の枠を超えて科学技術の融合が加速されている。ナノバイオテクノロジーの成果を医療分野に応用することにより、疾病の分子メカニズム、疾病マーカーなどが明らかに

なり、さらには新たな臨床検査機器や臨床検査形態の実現が期待される。本講演では半導体/バイオ融合分野の最近の動きについて、講演者らの研究を中心に紹介する。

「福島第一原子力発電所事故と放射線の人体影響」

東京工業大学原子炉工学研究所 所長 有富 正憲

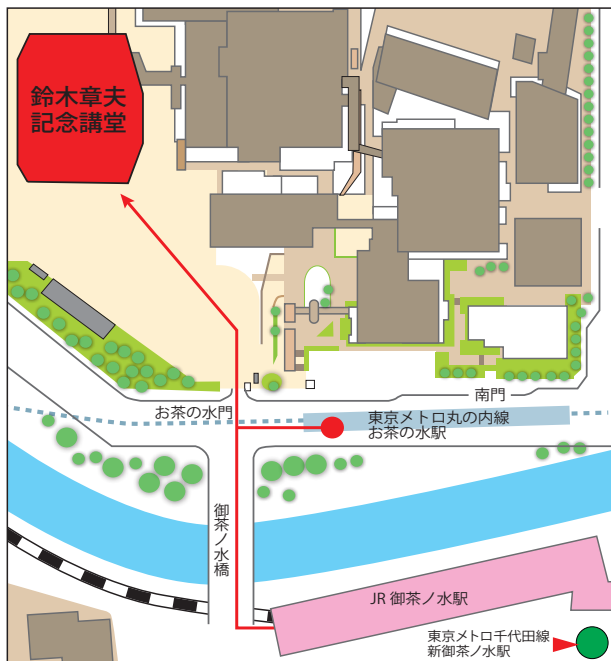
福島第一原子力発電所で何が起ったのかを話し、他の原子力発電所において同様の全交流電源喪失事故と海水冷却装置喪失事故が同時に発生した場合に、その事故を安全に収束させるためのアクシデントマネジメントについて議論する。次に、放射線と放射能について講述し、自然界における放射能を

紹介するとともに、放射線の人体影響について確定的影響と確率的影響を述べ、放射線の人体影響について議論する。最後に、東京工業大学原子炉工学研究所及び近郊において原発事故後に計測した放射線線量結果を示し、東京近郊における放射線の影響を議論する。

会場案内

東京医科歯科大学 M&Dタワー2階 鈴木章夫記念講堂

- JR御茶の水駅（御茶ノ水橋口出口）
- 東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅
- 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅
(B1 出口：JR御茶ノ水駅方面出口)



FAX用参加申込書

(送付先：03-5280-8001)

《第6回 四大学連合文化講演会参加申込書》

お名前 _____

職業 _____ 男・女 年齢(歳) _____

所属先 _____

ご住所 〒 _____

電話番号 _____

F A X _____

Email _____

● お申込のきっかけ(番号に○をつけてください)

1. 講演会ホームページを見て _____)
 2. 日本経済新聞の記事・広告 _____)
 3. ポスターを見て _____)
 4. 大学等からの案内(大学名等: _____)
 5. その他(_____)
- ※この申込書に記載された内容は、講演会のみで使用します。外部に漏れることはありません。